

市場に育つ成長の芽

世界に激震が走ったリーマン・ショックから、まもなく4年。危機のトンネルから抜け出せない欧米を横目に、日本の金融市場や銀行・証券の地位は相対的に高まってきた。復活への最後の機会――。再評価の兆しが出てきた日本の「金融」の力に、この国の浮沈がかかっている。

敬称略
（金融ニッポン取材班）

金融ニッポン

第1部 危機の中の勝機 ①

3月下旬。欧州危機のさなかに来日したイタリア首相マリオ・モンティが、日本の有力な銀行・証券の首脳と会合を持った。「わが国の国債を見放さないでほしい。伊は、信用力の目安となる格付けなどの面で、いつの間にか世界の優等生に変わった。世界中の投資家が欧州から資金を引き揚げるなか、伊首相にはシ

不良債権の問題による

やぐりをつけた日本勢

は、信用力の目安となる

格付けなどの面で、いつ

の間にか世界の優等生に

変わった。世界中の投資家

が欧州から資金を引き揚

げるなか、伊首相にはシ

のとりまとめ役として、

三菱UFJ、三井住友

みずほの三大銀行グルー

プが2012年上半期

に、世界の中でそろって

上位10社以内に入った。

バブル崩壊後の株価下

落や経済の停滞で、衰退

への道を歩み出したかの

ように思われた日本。銀

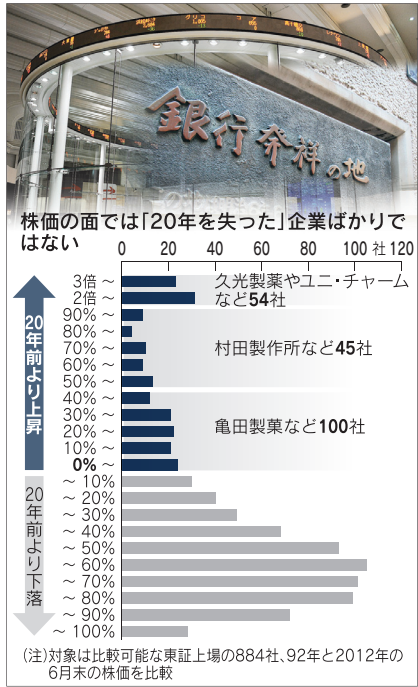
行に代表される金融の地

盤沈下は、その象徴だっ

た。米欧の金融危機のな

か、この国に注がれる

視線は悲観一色ではなく



（注）対象は比較可能な東証上場の884社。92年と2012年の6月末の株価を比較

悲観一色ではない

なりつつある。ニクラス・セントローム。ネット電話の世界的なベンチャー企業スカイプを創業し、今はロンドンでベンチャーファンドを運営する起業家が最も注目する国の一つが日本だという。すでに都内の翻訳業ベンチャー「ゲノム」に投資し、次の来日の機会をうかがう。

技術は「宝の山」

米投資会社リバーサイド・パートナーズ最高経営責任者のスチュワート・コールも6月に日本を訪れ、「卓越した技術力を持った企業が多い日本は宝の山」との意を強くして帰国した。

金融市場に目を凝らせば、「失われた20年」と呼ばれるバブル崩壊後の年月にも、「成長」の芽は確かに膨らんでいる。

今年6月末までの20年間で日経平均株価は4割超下がったが、全体の2割の企業は株価が上昇した。10倍超になった久光製薬やユニ・チャームを筆頭に54社の株価は2倍

以上になった。高い製品シェアや技術力を武器に、難局を乗りきった。日本経済の構造的な弱さとされてきた「高齢化」も見方を変えれば金融の活性化につながる。

「世界有数の長寿国である日本では、リスク賃した名門銀行ロンパールへの投資がこれから活発になる」。米大手運用会社アラックロックのアジア太平洋会長マーク・マツコームは今年1月の就任来、言い続けている。理といったプライベート

地銀と名門組む

18世紀にスイスで創業後、バブルの生成と崩壊を経てわかったことは、背伸びをしすぎず、自国の実情を見きわめる大切さだ。企業や家計の強みを引き出すことができ、この国の金融がよみがえる余地はある。

東京を世界の金融センターに。ニッポンが目指す理想の姿は、東京株式市場が時価総額で世界一を誇った1980年代後半への回帰ではない。

7月初旬に東京大学が開いた「資本主義を問い直す」と題するセミナーで、教授の吉川洋は「金融は虚業ではない」と力説した。成長が見込める産業や企業に資金を供給し、経済構造を転換させる金融業は、実体的な価値を持つという主張だ。

逆にいえば、成長分野にお金を回さない金融は虚業で「深刻なバブルを引き起こす」と吉川は語る。米国の金融バブルは崩壊し、米欧金融機関の信用は傷

産業支えてこそ

ついた。米ウォール街は敵意の視線を浴びている。東京市場には、米欧のような金融不信が渦巻いているわけではない。これも日本の強みの一つだが、日本勢も新しい事業モデルを確立できないでいる。銀行が預金で集めたお金のうち貸し出しに回る部分は7割弱。残り3割は国の赤字の穴埋めである国債などに回している。大手証券も「増資インサイダー」問題で信頼が揺らいだ。1873年、東京・兜町に初の銀行を創設した渋沢栄一は「実業としての銀行」を説いた。東京市場復活の力ギはその原点に戻れるかどうかにある。

許諾番号 XXXXXXXXXX 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。